

ミンダナオ研究：資料解説

早 瀬 晋 三

フィリピン南部、ミンダナオ地方（ミンダナオ島とスルー諸島）の研究は、様々な意味で複雑な問題を含んでいる。第一に、全人口の90%以上がキリスト教徒であるフィリピン諸島で、イスラム教徒が多数居住している地域である。第二に、分類、分布の把握が非常に困難な数多くの少数民族が、分散居住している地域である。第三に、「約束された土地 (land of promise)」と呼ばれてきたように、過去数十年間に亘って、開発が推し進められているフロンティアである。そして、上記3点が複雑に絡みあって、現在、反政府組織、セロ民族解放戦線 (Moro National Liberation Front)、及び、新人民軍 (New People's Army 共産系) の活動が激しい地域である。

歴史的に概観すれば、ミンダナオのイスラム教徒は、3世紀以上、スペインの植民地化に頑強に抵抗し続け、アメリカ植民統治下 (1898-1941) でも、彼らの信仰と先祖伝来の価値観を守り抜いた人々である。しかし、キリスト教徒に改宗した多数の現地人を使ったスペインとの長い一連の戦争、“Moro Wars” は、ミンダナオのイスラム社会に様々な悪影響をもたらした。イスラム教徒の田畑は荒れ、経済面での発達は遅れた。また、スペイン植民地政府の宣伝もあって、北部キリスト教徒の南部イスラム教徒に対する強い不信が生じ、世代から世代へと伝わっていった。『ミンダナオの問題』は、アメリカ植民統治下に入っても解決されなかった。アメリカ植民地政府がとった政策は、イスラム教徒をキリスト教徒社会に繰り込むことであった。その1つの方策として、アメリカ植民地政府は、キリスト教徒の行政官、教師、知

的職業人、開拓民たちをミンダナオに送り込んだ。この政策は、独立後（1946年）も強化して続けられ、ミンダナオのイスラム教徒は、入植してきたキリスト教徒によって、「合法的」に先祖伝来の土地を奪われていった。この土地絡みの問題は、人口増加に伴う土地不足から近年更に状況が悪化し、キリスト教徒によって先祖伝来の土地を奪われたイスラム教徒が少数民族地区に入り、少数民族の土地を奪うなど様々な問題を生み出す原因となった。

一方、イスラム化していないミンダナオの少数民族は、19世紀末までイスラム教徒の奴隷狩りの犠牲になったものの、固有の信仰、価値、習俗、社会組織を維持し続けてきた。しかし、アメリカ植民地時代に入り、ミンダナオの開発が進むにつれて、民族集団として、存続そのものの危機に直面した。最も顕著な例は、ダバオの Bagobo 族に見られる。ダバオは、アメリカ植民統治下のフィリピン諸島で、最も重要な輸出用商品作物の1つとなったマニラ麻栽培を中心に発展したが、その過程で Bagobo 族は土地を奪われ、Bagobo 族としての社会基盤を失っていった。独立後、ミンダナオの「開発」と「近代化」は更に奥地まで及び、多くの少数民族が民族集団としてのアイデンティティ喪失の問題に直面している。

ミンダナオ研究の歴史は、「Moro Wars」の歴史から始まる。スペイン人の歴史叙述、例えば、[Barrantes 1878; Montero y Vidal 1888] では、ミンダナオのイスラム教徒は、スペインの植民地、即ち、キリスト教化されたフィリピン諸島を襲う「海賊」として描かれている。このイスラム教徒に対する悪いイメージは、キリスト教徒＝善、イスラム教徒＝悪という「モロ＝モロ」と呼ばれた演劇を通して一層増幅された。スペイン植民地時代の少数民族に関する文献は、1768年にフィリピン諸島での布教活動を禁止され、1859年に復帰したイエズス会の記録に残されている [Jesuits 1877-95; Pastells 1916-17]。また、[Montano 1886] の旅行記の大半は、ミンダナオの民族に関するものである。アメリカ植民地時代には、歴史研究として、Saleeby の一連の業績がある [1905, 1908, 1913]。Saleeby は、精力的にアラビア語で

書かれた文書を収集し、今日でも最も重要な基本的業績を残している。また、アメリカ植民地時代初期のミンダナオ研究では、人類学的研究が目につく。[M. Cole 1929; Lander (Savage) 1904; Sawyer 1900] は、フィリピン諸島全体の民族誌を扱っているが、ミンダナオの民族誌についてもかなりの頁数を割いている。[Orosa 1923] ではスルー諸島全体の諸民族の社会と文化が記述されている。個々の民族研究として、Benedict の Bagobo 族 [1916], F.-C. Cole の Bagobo 族 [1913] と Bukidnon 族 [1956], Finley & Churchill の Subanon 族 [1913], Garvan の Manobo (Agusan) 族 [1931] がある。フィリピン共和国時代（1946年以降）になっても、人類学的研究が中心であったが、1973年に出版された Majul の歴史研究を契機として、ミンダナオの歴史研究が急速に発展した。また、1972年のマルコス大統領によって布告された戒厳令以降、イスラム教徒の反政府活動が活発になったため、イスラム教徒をめぐる政治問題に焦点を置いた研究も注目を集めるようになった。

ミンダナオ研究のための資料解説に入る前に、2, 3, ミンダナオ研究を含むフィリピン研究一般のための手引書を紹介したい。ハワイ大学で出版された *Southeast Asian Research Tools* シリーズの内の1冊 [Baradi 1979] は、分野別に文献目録など基本的な参考図書が紹介されており、初心者にとってとりわけ有用である。1972年に同じくハワイ大学から出版された Saito の *Philippine Ethnography* は、民族研究或いは地域研究にとって便利な手引書である。また、Saito & Mak 編 [1984] は、フィリピンで発行された新聞の所蔵機関及び所蔵年代のリストが、発行地別に編集されているため、地域研究にとって便利な情報を提供してくれる。日本語では、池端雪浦 [1984] が1節を設けて「イスラム社会」の基本的な資（史）料を紹介している。

資料解説にあたって、まず、フィリピンのイスラム教徒の歴史に関する史料から検討してみたい。一般に、フィリピンのイスラム教徒は、一括して「モロ (Moro)」と呼ばれてきた。この呼称は、8世紀に北アフリカからイ

ペリア半島に侵入してきたイスラム教徒、ムーア人（Moore）のスペイン語の呼称が転用されたもので、この「モロ」の中には多数の民族集団が含まれている。フィリピンのイスラム教徒社会には、歴史的に複数のスルタネイト（sulutanate イスラム王国）があったとされているが、大きく分けると、スルー諸島の Tausug 族を中心とするスルー・スルタネイトとミンダナオ島の Pulangi (Mindanao) 河流域の Maguindanao 族を中心とするマギンダナオ・スルタネイトの2つであったということが出来る。現地に残っているイスラム教徒の史料として、現在最もよく利用されているのが、タルシラ (tarsila) である。これは、スルタン (sultan) や有力なダト (dato 首長) が代々受け継いでいる王統年代記である。現在利用されている中で最も古いタルシラは、18世紀の Dalrymple [1849] や Forrest [1779] による旅行記に引用されたものであるが、一般に利用されているのは、20世紀初頭に Saleeby によって収録された写本である [1905, 1908]。これらのタルシラは、Majul によって再編集され、18, 19世紀の歴史叙述については、スペイン人によって書かれた史料などを参考にして、ほぼ完全に裏付けがとられている。しかし、16, 17世紀の叙述に関しては、その信憑性をほとんど語れない状況である。尚、ミンダナオ島の Maguindanao 族のタルシラについては、[Mastura 1979] が詳しい。タルシラによって正確な歴史的把握が困難なのは、タルシラが支配権の正当性を述べるために書かれた年代記だからである。そのため、明らかに加筆、修正が行われたと思われる箇所がある。また、スルタンやダトには、称号が用いられたため、異なった人物が、あたかも同一人物であるかのように扱われるなどの混乱が生じている。この年代記を補うものとして、毎週金曜日の礼拝時とイスラムの二大祭り ('Id ul-Fitr 断食明けの祭と 'Id ul-Adha 犠牲祭) の時に説教されるフトゥバ (khutbah 説教) がある。王統年代記が権力者側によって、加筆、修正されたのに対し、フトゥバはイスラムの信仰に害を及ぼさない限り、権力者の意向に係わりなく叙述されているため、年代記では欠落している人物が浮かび上がってくる。しかし、フトゥ

バも、現在、18世紀のものが最も古いといわれているなどの問題点を含んでいる。この他、キターブ (kitab 書物) は、スルタンの統治年代だけでなく、スルタンの性格や業績を記述しており、史料として補足的役割を果たしている。また、いろいろな民間伝承があり、ミンダナオ各地で収集されているが、まだ整理が進んでいるとはいえず、学問的に使用するにはいろいろな問題が残されている。

イスラム化される以前のミンダナオについては、漢文資料が参考になる。スルーは「蘇祿」という地名で、『島夷誌略』（元）、『西洋朝貢典録』、『天下郡国利病書』、『明史』（以上明）に見える。ミンダナオ、或いは、マギンダナオの地名は、『東西洋考』（明）に「網巾礁老」、『題振礁老』と記され、『明史』には「網布礁老」、『海国聞見録』（明）には「網巾礁腦」、『環環志略』（清）には「民答那設」と記されている。

次に、欧米人によって残された未刊行一次史料の検討に入る。この十数年間に、フィリピン史研究、特に地方史研究は飛躍的な進歩を遂げており、スペイン、アメリカ、イギリス、フィリピン等の古文書館、図書館での一次史料の発掘と丹念な検討が積み重ねられている。ミンダナオの歴史研究においても、[Ileto 1971; Majul 1973; Gowing 1977; Warren 1981] などの優れた研究が発表されている。Ileto の研究は、市場経済に巻き込まれつつあった19世紀後半のフィリピンのイスラム社会の動揺を、マギンダナオ族の首長, Datu Uto を中心に論じている。Majul は、スルー諸島を中心にイスラム化から“Moro Wars” (19世紀末まで) を扱い、フィリピンのイスラム教徒の歴史研究の礎を築いた。一方、Gowing は、アメリカ植民地政府のイスラム教徒平定政策と支配の過程を詳細に論じている。また、Warren は、スペイン、イギリス、オランダ、アメリカ、フィリピン、インドネシアで収集した未刊行一次史料を駆使し、スペイン人から「海賊」と呼ばれ、恐れられていたスルーの海洋民族の歴史の実態を明らかにした。このスルーの「海賊」をイギリス側の史料を使用して、分析した著書に [Tarling 1978] がある。

スペインの古文書館所蔵の未刊行一次史料の手引書として、[Cruikshank 1984] が便利である。この他のスペイン語未刊行一次史料では、Philippine National Archives の古文書やシカゴの Newberry Library 所蔵の Edward E. Ayer Collection の中に貴重な文献が残されている。一方、Majul や Warren によって発掘されたミンダナオ関係のオランダ語史料も、徐々に使用されるようになってきている。ミンダナオの歴史をスペイン人が残した史料からのみ検討するのではなく、貿易のため頻繁にミンダナオを訪れていたオランダ人が残した史料を使って検討することも意義あることである。しかし、欧米人によって残された史料を検討するにあたって、注意しなければならないのは、記述者の無知や偏見のために、しばしばそこに誤解が生じていることである。特に、ミンダナオ研究の場合、住民が異教徒であるという反感から、記述者が正確な判断を失っていることがまみられる。

アメリカ植民地時代のミンダナオ関係の未刊行一次史料は、スペイン植民地時代に比べ、はるかに多く、よく整理されている。ここでは、筆者が1981年に直接、史料の発掘、収集を行ったダバオの少数民族関係を中心に史料の検討を進めていく。尚、アメリカでのフィリピン関係未刊行一次史料の探索には、[Saito 1982] が便利である。首都ワシントンにある National Archives and Records Service には豊富な未刊行一次史料がある。しかし、これらの史料は、軍事、外交、経済関係のものが中心で、社会、文化関係のものは少ない。また、同じく首都ワシントンにある Library of Congress 所蔵の文書も、Moro Province (1903-1913) の歴代知事など軍事関係者のものが中心で、同じ傾向がうかがえる。この他、ミンガン大学には、ミンガン大学教授で植民地政府の高官であった Dean C. Worcester や副総督を務めた Joseph R. Hayden のコレクションがある。これらは、軍人、政治家とは違った目で、フィリピンを観察していることから興味深い史料である。以上の他、大量の植民地政府発行の刊行物が出版されている [Elemer 1918; University of the Philippines Library 1960]。

一方、フィリピンに残されているアメリカ植民地時代の未刊行一次史料は、驚くほど少ない。Philippine National Library 所蔵の Manuel L. Quezon 文書が最大のものであるが、残されなかった文書がかなりあるようだ。その他、Sergio Osmeña や Jose P. Laurel など歴代大統領の文書も一般に公開されており、貴重な史料となる。教会関係の文書としては、1859年以来、ミンダナオの布教活動に携わってきたイエズス会の文書 Archives of Philippine Province が Ateneo de Manila 大学内にある。イエズス会文書については、[Arcilla 1981] が参考になる。また、各教会には、洗礼、結婚、死亡の記録が残されており、特に家族史を紐解くのに貴重な史料となる。National Library of Australia には、フィリピンにおける人類学の父ともいべき H. Otley Beyer のコレクションがある。中でも、“Moro Ethnography” や “The Pagan Peoples of Mindanao” のシリーズは、ミンダナオの民族誌にとって欠かせないものであるが、残念ながら一部欠本が認められる。ダバオ関係の文書に限れば、戦前2万人余りの日本人移民がマニラ麻栽培に従事していたことから、日本外交文書（外務省外交史料館、東京）にその記述が見られる。

以上のように、アメリカ植民地時代のミンダナオに関する史料は非常に多い。しかし、これらの史料には、非常な偏りがある。当時のミンダナオの状況を概観すると、その構成員は、原住民（イスラム教徒、その他の少数民族）、入植者（日本人、キリスト教徒）、行政官（アメリカ人、キリスト教徒）から成り立っていたことがわかるが、上記の史料のほとんどは、アメリカの行政官が、植民地行政のために書いたものである。従って、この偏りは、ミンダナオ社会全体の把握の障害ともなっている。

ミンダナオの少数民族の歴史研究については、更に難しい問題がある。アメリカ植民地政府は、非キリスト教徒政策のために、1901年、Department of Interior 内に、Bureau of Non-Christian Tribes を設け、更に、1903年、ミンダナオの秩序と平和のために、Moro Province を設立した。しかし、前

者は専らルソン島北部の少数民族、後者はイスラム教徒を対象とした機関であって、ミンダナオの少数民族を対象とした機関ではなかった。にもかかわらず、上記の機関が発令する法律の対象に、ミンダナオの少数民族も含まれていたことが、問題を一層複雑にした。制定された法令も、どこまでミンダナオの少数民族政策に適用され、実行されたか判断することは難しい。

以上、ミンダナオの歴史研究に必要な文献を未刊行一次史料を中心に検討してみた。次に、ミンダナオに関する文献目録について紹介したい。一般に入手しやすい文献目録については、Tiamson の一連の業績 [1970, 1979 etc.] があるが、残念なことに、分類、整理の仕方に問題がある。その上、誤植が多いため、或いは、編者が信頼すべき情報に基づいていないため、これらの文献目録に基づいた資料収集には、かなりのいらだちを覚える。入手困難であるが、National Computer Center が発行した4巻本の文献目録 [1980] は、文献の所在（但し、フィリピン国内のみ）が明記されていることから、フィリピンでの文献収集に便利である。修士論文・博士論文の文献目録として [Columnas 1976] があり、[Jocano 1983] 巻末の文献目録は、スペイン語史料の他、修士・博士論文も掲載されており有用である。また、モロ民族解放戦線関係の1972年から1978年の文献については、「Domingo 1978」の修士論文が役に立つ。

ミンダナオ関係の研究機関、及び、雑誌については、筆者が既に報告しているため、詳細については省略するが [早瀬 1986], *Kinaadman* VI, 2 (1984) [Anonymous] “Bibliography: Mindanao and Sulu in Thirteen Philippine and Two Roman Periodicals, 1950-1980” に、ミンダナオ関係の雑誌論文が雑誌毎に網羅されている。雑誌の中で最も重要なものは、イスラム教徒関係であれば、季刊 *Mindanao Journal* (University Research Center, Mindanao State University) と *Dansalan Quarterly* (Peter G. Gowing Memorial Research Center, Dansalan College) である。最近の傾向として、*Mindanao Journal* は研究大会提出論文集、*Dansalan Quarterly*

は、修士論文を掲載している。しかし、両雑誌とも、最近発行が遅れ気味なのが気にかかる。一方、ミンダナオ全体を扱っている *Kinaadman* (Xavier University etc.) は、編集もしっかりしており、好評を得て、年2回定期的に刊行されている。

次に、1980年以降に出版されたミンダナオ関係の文献を中心に紹介していきたい。紹介にあたって、冒頭で用いた3つの分類——イスラム教徒、少数民族、開発——を用いる。イスラム教徒関係では、1980年代に入って、[Warren 1981] 以外に、未刊行一次史料を駆使した大著は出版されていない。しかし、フィリピンのイスラム教徒に関する研究の入門書として、[Gowing 1979; Madale 1981; Jocano 1983] が相次いで出版された。また、フィリピンのイスラム教徒に関する研究を代表する研究者の論文集 [Majul 1980; Tan 1982; Mastura 1984] も相次いで出版された。フィリピン・イスラムの歴史研究の第一人者、Majul は、この論文集で現代のフィリピンのイスラム教徒が、イスラム教徒として抱える内面的な問題を論じている。アメリカ植民地時代の最初から近年までの、イスラム教徒とマニラ政府との武力衝突を中心に論じた著書 [Tan 1977] のある Tan の論文集は、スルー諸島を中心に、歴史と文化の問題を論じている。一方、Mastura の論文集は、歴史から現代の政治問題まで幅広く扱っている。一般に、フィリピンのイスラム教徒に関する研究といった場合、そのほとんどがスルー諸島中心であるだけに、マギンダナオ・スルタネイトのタルシラに精通している Mastura の研究は、注目に値する。また、[Silva 1979] は、100頁弱の本であるが、「ミンダナオ問題」を土地問題を通して論述していることから、いわゆる「通説」とは違った「ミンダナオ問題」が見えてくる。現在の政治的「ミンダナオ問題」を扱った概説書に、*Asiaweek* の [George 1980] がある。研究者の手によるものでは、[Arce 1983] が1960年代初頭の政治問題をホロ島中心に論じている。また、[Lim & Vani 1984] の中に3篇、ミンダナオ関係の論文があり、モロ民族解放戦線と難民の問題を扱っている。尚、[Majul

1985] は、ミンダナオ研究入門書として最適の好著であり、博士論文に基づいた [Bauzon, forthcoming] も出版される予定である。また、1985年9月には、Tripoli Agreement (1976年12月23日にリビアのトリポリでフィリピン共和国とモロ民族解放戦線との間で締結された) に関する研究大会が開かれ、大会のための資料集が出版され [ISIP 1985]、翌年、提出論文集としてまとめられた [ISIP 1986]。今後のモロ民族解放戦線の動向を占う意味でも貴重な資料、論文集である。尚、フィリピンとマレーシアとの間の Sabah 領有権問題を扱ったものに [Noble 1977] がある。これらの他、ミンダナオ情勢については、しばしば雑誌や新聞で取り上げられている。しかし、それらのほとんどが、表面的な事件を追うだけで、「ミンダナオ問題」の本質に迫っていない。「近代的」或いは「欧米的」中央集権組織として語られがちなモロ民族解放戦線も、ミンダナオのイスラム社会、或いは、少数民族社会を考慮にいとると、その組織や活動が実に理解しやすいことなど、基本的理解に根ざしていないことがまみられる。その意味でも、フィリピン人によって書かれた修士論文、19世紀のマギンダナオ・スルタネイトを扱った [Villana-Campado 1982] や村落レベルでのモロ民族解放戦線の動向を扱った [Bucoy 1984] などの充実に期待したい。イスラム教徒の個々の民族集団については、フィリピン大学 Asian Center で、1978年に出版された Tausug 族 [Jundam & Sabalvaro], Maranao 族 [Convocar & Badron], Badjaw 族 [Sabalvaro & Jundam], Maguindanao 族 [Glang & Convocar] に続いて、1983年に Yakan 族 [Jundam], Sama 族 [Jundam] が刊行されただけで、近年、本格的な研究は発表されていない。これらの小出版物は、写真が大半を占め、各民族を紹介しているにすぎない。Maranao 族を扱った [Mednick 1965], Tausug 族を扱った [Kiefer 1972], Jama Mapun 族を扱った [Casiño 1976] が、民族誌研究として依然最も重要な文献である。日本語では、歴史的逸話から現代の政治問題まで幅広く扱ったユニークな文化論、[鶴見 1984] がある。[門田 1986] の記述も正確で、スルー諸島の漂海民を興味深く紹介している。

ミンダナオの少数民族に関する研究書は、ICL Research Team が概説書を出版しただけで [1979]、近年、ほとんど出版されていない。これは、治安の悪化に伴って、現地調査を行うことが困難になったためである。そのような状況の下、ダバオの Bagobo 族に関する博士論文が、オーストラリア、フィリピン、アメリカでほぼ同時に提出されたことは注目に値する [Hayase 1984; Gloria 1985; Payne 1985]。それぞれ、アメリカ植民地時代の経済開発と Bagobo 族の社会変容、スペイン植民地時代から現代までの低地 Bagobo 族の文化変化、医療人類学を扱っている。この他、Tiruray 族については、Schlegel の研究があり [1970, 1979]、前著で法人類学、後著で焼畑農耕から定着農耕への移行の過程を論じている。また、Iliansen Manobo 族（別称 Cotabato Manobo 族）の口承伝承が、Wrigglesworth によってまとめられ、出版された [1981]。

ミンダナオの開発については、[鶴見 1982] が出版されてから一般にも知られるようになった。ダバオのバナナ産業については、フィリピン大学 Third World Studies Center [1981]、東京のアジア太平洋資料センター、オーストラリアの Peter Krinks [1981] などを中心となって研究が進められたもので、それぞれ報告書を出版している。同じ流れをくむ Alternate (Afrim) Resource Center (ダバオ市) が出版した本 [Tadem 1980; Tadem et al. 1984] は、ミンダナオの開発の現状を理解するための入門書となる。また、同センター発行の566頁に及ぶ統計書 [1985] は、非常に便利なデータ（但し、誤植が多いので要注意）を提供しているが、問題は、これらのデータをどう理解し、どのように使って、ミンダナオの理解に役立てるかで、今後の研究成果が待たれる。開発と少数民族を扱った概説書として [Anti-Slavery Society 1983] がある。また、政情不安定なミンダナオとキリスト教会との関係を考える著書として [Startup & Laird 1985] がある。蛇足になるが、第二次世界大戦前の日本人によるマニラ麻農園経営史として、[蒲原 1938; 古川 1956] が基本的日本語文献となるが、最近、当時を回顧して、

[柴田 1979；城田 1980, 1985；石原 1983] が出版された。

以上のような研究状況を念頭に置き、今後のミンダナオ研究を模索してみると以下の様に整理することが出来る。まず、第一に、イスラム教徒研究者にみられがちな、イスラム教徒中心のミンダナオ研究を改め、ミンダナオ全体を1つの社会としてとらえる研究が必要である。現在の「ミンダナオの問題」は、イスラム教徒の問題も、単独で理解出来るほど単純な様相を呈していない。イスラム教徒とキリスト教徒という対立関係より、むしろ、キリスト教徒を中心とするマニラの政府とミンダナオの住民（イスラム教徒、その他の少数民族、キリスト教徒入植者）という構図でとらえた方が理解しやすい面もある。第二に、第一と関連して、過去1世紀間、社会変動の激しいミンダナオの社会を経済的的局面に限定することなく、イスラム教徒や少数民族社会の生活全般に係わる問題として、全体的に分析することが必要である。この問題は、ミンダナオの反政府組織、モロ民族解放戦線や新人民軍がどのようにミンダナオの社会に食い込んでいったかと関連してくる。これらの反政府組織は、ミンダナオの基層社会の構造と同じく、小集団の自律性を認めた組織の連合体から成り立っていると考えられる。時と場合に応じて、連合、分離を繰り返していることなどを考え合わせた研究が必要である。経済的的局面においても、欧米的な経済概念では理解しきれないことが多々ある。市場経済に巻き込まれているとはいえ、彼らの思考、生活形態の範囲内での受容と考えられる。それ故、生活全般に係わる問題を理解した上での研究が必要である。第三に、視座の転換を試み、マニラの政府の側から見たミンダナオ研究ではなく、イスラム教徒などミンダナオの住民自身の立場に立った分析を行う必要がある。第四に、研究視野をミンダナオのみに限定することなく、より広い視野でとらえることが必要である。例えば、資本主義世界システム論の中でミンダナオの開発をどうとらえるか、或いは、国家とエスニシティの問題などを「ミンダナオの問題」を通してどのように考えるかなど様々な考察が必要である。

この十数年間、フィリピン史研究、特に地方史研究が飛躍的な進歩を遂げたとはいえ、フィリピンの中でも、ミンダナオ研究は、最も遅れている分野である。基本的な資（史）料の収集の問題からも、また、地域研究という観点からも、今後、徹底した資（史）料の発掘、分析とフィールドワークが必要な分野である。

[文 献 目 録]

- Alternate Resource Center, *Socio Economic Factbook of Mindanao*. Davao City (1985) 566 p.
- Anonymous, "Bibliography: Mindanao and Sulu in Thirteen Philippine and Two Roman Periodicals 1950-1980," *Kinaadman*, VI, 2 (1984) pp. 291-320.
- Anti-Slavery Society, *The Philippines: Authoritarian Government, Multinationals and Ancestral Lands*. London (1983) 189 p.
- Arce, Wilfredo F., *Before the Secessionist Storm: Muslim-Christian Politics in Jolo, Sulu, Philippines, 1961-1962*. Singapore: Institute of Southeast Asian Studies (1983) 121 p.
- Arcilla, José S., "A Manuscript Bibliography of the Philippine Jesuits, 1859-1900" *Philippine Studies*, XXIX, 3-4 (1981) pp. 549-66.
- Baradi, Edita R., *Southeast Asian Research Tools: The Philippines*. Southeast Asia Paper No. 16, Part V, University of Hawaii (1979) 304 p.
- Barrantes, Vicente, *Guerras Piráticas de Filipinas contra Mindanaos y Joloanos*. Madrid: Imprenta de Manuel G. Hernandez (1878) 448 p.
- Bauzon, Kenneth E., *Islam in the Philippines: The Case of Bangsa Moro*. London: Routledge and Kegan Paul International, forthcoming.
- Benedict, Laura Watson, *A Study of Bagobo Ceremonial, Magic and Myth*. New York: New York Academy of Sciences (1916) 308 p.
- Bucoy, Rhodora Masilang, "The Moro National Liberation Front: A Study of a Political Movement as Perceived by Maranaos in Some Selected Barangays of Marawi City," M.A. Thesis, University of the Philippines (1984) 181 p.
- Casiño, Eric S., *The Jama Mapun: A Changing Samal Society in the Southern Philippines*. Quezon City: Ateneo de Manila University Press (1976) 159 p.
- Cole, Fay-Cooper, *The Wild Tribes of Davao District, Mindanao*. Chicago: Field Museum of Natural History, Publication 170, Anthropological Series, XII, 2 (1913) pp. 49-203.
- Cole, Fay-Cooper, *The Bukidnon of Mindanao*. Chicago: Natural History Museum,

- Publication 792 (1956) 140 p.
- Cole, Mabel Cook, *Savage Gentlemen*. London, Calcutta, Sydney: George G. Harrap & Co., Ltd. (1929) 249 p.
- Columnas, Edelin L., *Bibliography of Theses and Dissertations on Muslim Filipinos*. Makati, Rizal: Filipinas Foundation (1976) 77 p.
- Convocar, Manuel M. & Paladan Badron, *Maranao*. Field Report Series No. 3, Quezon City: University of the Philippines (1978) 44 p.
- Cruikshank, Bruce. *Filipiniana in Madrid: Field Notes on Five Manuscript Collections*. Philippine Studies Occasional Papers No. 6, University of Hawaii (1984) 426 p.
- Dalrymple, Alexander. "Essay towards an Account of Sulu," *Journal of the Indian Archipelago and Eastern Asia*, Series I, No. 3 (1849, reprinted in 1970) pp. 512-31 & 545-67.
- Domingo, Luis Barrios, "The Moro National Liberation Front, 1972-1978: An Annotated Bibliography," Master of Library Science Thesis, University of the Philippines (1978) 312 p.
- Elemer, Emma Osterman, comp., *Checklist of Publications of the Government of the Philippine Islands, September 1, 1900 to December 31, 1917*. Manila: Bureau of Printing (1918) 288 p.
- Finley, John Park & William Churchill, *The Subanu: Studies of a Sub-Visayan Mountain Folk of Mindanao*. Washington, D.C.: Carnegie Institution of Washington, Publication No. 184 (1913) 236 p.
- Ferrest, Thomas, *A Voyage to New Guinea and the Moluccas from Balam-bangan: Including an Account of Magindanao, Sooloo and Other Islands*. London: J. Robson (1779, reprinted in 1969) 388 p.
- 古川義三『ダバオ開拓記』古川拓殖株式会社 (1956) 693 p.
- Garvan, John M., *The Manobos of Mindanao*. Washington, D.C.: Government Printing Office, Memorial of the National Academy of Science, XXIII, 1st Memoir (1931) 265 p.
- George, T.J.S., *Revolt in Mindanao: The Rise of Islam in Philippine Politics*. Kuala Lumpur: Oxford University Press (1980) 294 p.
- Glang Sahid S. & Manuel M. Convocar, *Maguindanaon*. Field Report Series No. 6, Quezon City: University of the Philippines (1978) 41 p.
- Gloria, Heidi K., "Ethnohistory and Culture Change among the Eagobos," Ph. D. Thesis, University of the Philippines (1985) 275 p. + xxviii + 29 p. + 30 p. + 2 p.

- Gowing, Peter G., *Mandate in Moroland: The American Government of Muslim Filipinos 1899-1920*. Quezon City: University of the Philippines (1977) 411 p.
- Gowing, Peter G., *Muslim Filipinos — Heritage and Horizon*. Quezon City: New Day Publishers (1979) 286 p.
- Hayase, Shinzo, "Tribes, Settlers, and Administrators on a Frontier: Economic Development and Social Change in Davao, Southeastern Mindanao, the Philippines, 1899-1941," Ph. D. Thesis. Murdoch University (1984) 426 p.
- 早瀬晋三「ミンダナオの大学・研究状況」『東南アジア歴史と文化』No. 15 (1986) pp. 180-82.
- ICL Research Team, *A Report on Tribal Minorities in Mindanao*. Manila: Regal Print (1979) 102 p.
- 池端雪清『フィリピン』『アジア歴史研究入門5』京都, 同朋社 (1984) pp. 309-31.
- Ileto, Reynaldo C., *Magindanao, 1860-1888: The Career of Datu Uto of Buayan*. Data Paper No. 82, New York: Cornell University (1971, reprinted by Mindanao State University, n. d., with a few minor changes, 143 p.) 72 p.
- International Studies Institute of the Philippines, University of the Philippines, *Muslim Filipino Struggle for Identity: Challenge and Response*. Selected Documents for the Conference on the Tripoli Agreement, September 12-13, 1985. (1985) 54 p. + 154 p. + 205 p.
- International Studies Institute of the Philippines, University of the Philippines, *Papers of the Conference on the Tripoli Agreement: Problems and Prospects*. (1986) 163 p.
- 石原喜与次『黒いアバカーフィリピン・ダバオ元日本人小学校一教師の手記』富山(自費出版) 172 p.
- Jesuits (S.J., Philippines), *Cartas de los Padres de la Compañía de Jesús de la Misión de Filipinas*. Manila (1877-95) 10 volumes.
- Jocano, F. Landa, ed., *Filipino Muslims: Their Social Institutions and Cultural Achievements*. Quezon City: University of the Philippines (1983) 201 p.
- Jundam, Mashur bin-Ghalib, *Yakan*. Asian Center Ethnic Research Field Report (Series II) No. 1, Quezon City: University of the Philippines Press (1983) 43 p.
- Jundam, Mashur bin-Ghalib, *Sama*. Asian Center Ethnic Research Field Report (Series II) No. 2, Quezon City: University of the Philippines Press (1983) 49 p.
- Jundam, Mashur bin-Ghalib & Jose B. Sabalvaro, *Tausug*. Field Report Series No. 1, Quezon City: University of the Philippines (1978) 40 p.
- 蒲原広二『ダバオ邦人開拓史』ダバオ: 日比新聞社 (1938) 22 p. + 1580 p.

- Kiefer, Thomas M., *The Tausug: Law and Violence in a Philippine Moslem Society*. New York: Holt, Reinhart and Winston (1972) 145 p.
- Krinks, Peter, *Corporations in the Philippine Banana Export Industry: A Preliminary Account*. Third World Studies Center, University of the Philippines (1981)
- Landor, A. Henry Savage, *The Gems of the East*. London: MacMillan and Co., Ltd. (1904) 2 volumes.
- Lim Joo-Jock & Vani S., eds., *Armed Separatism in Southeast Asia*. Singapore: Regional Strategic Studies Programme, Institute of Southeast Asian Studies (1984) 270 p.
- Madale, Nagasura T., ed., *The Muslim Filipinos: A Book of Readings*. Quezon City: Alemar-Phoenix Publishing House (1981) 376 p.
- Majul, Cesar Adib, *Muslims in the Philippines*. Quezon City: University of the Philippines (1973) 392 p.
- Majul, Cesar Adib, *The Contemporary Muslim Movement in the Philippines*. Berkeley: Mizan Press (1985) 162p.
- Majul, Cesar Adib (Michael O. Mastura, ed.), *Islam and Development: A Collection of Essays*. Philippine Islam Series, Manila: Office of the Commissioner for Islamic Affairs (1980) 201 p.
- Mastura, Michael Ong, "The Rulers of Magindanao in Modern History, 1515-1903: Continuity and Change in a Traditional Realm in the Southern Philippines," (mimeo.) Research Project No. 5, Philippine Social Science Council (1979) 528 p.
- Mastura, Michael O., *Muslim Filipino Experience: A Collection of Essays*. Philippine Islam Series No. 3, Manila: Ministry of Muslim Affairs (1984) 285 p.
- Mednick, Melvin, "Encampment of the Lake: The Social Organization of a Moslem-Philippine (Moro) People," Ph.D. Thesis, University of Chicago (1965) 380 p.
- 門田修『漂流民一月とナマコと珊瑚礁』河出書房新社 (1986) 210 p.
- Montero y Vidal, José, *Historia de la Piratería Malayo-Mahometano, Jolís y Borneo*. Madrid: M. Tello (1888) 2 volumes.
- Montano, J., *Voyage aux Philippines et en Malaisie*. Paris: Librairie Hachette (1886) 351 p.
- National Computer Center, *An Annotated Source Book on the Islamized Ethnic Communities in the Philippines*. Quezon City (1980) 4 volumes.
- Noble, Lela Garner, *Philippine Policy toward Sabah: A Claim to Independence*. University of Arizona Press (1977) 267 p.
- Orosa, Sixto Y., *The Sulu Archipelago and Its People*. Yonkers-on-Hudson, New

- York: World Book Company (1923, reprinted in the Philippines, 1970, 190 p.) 134p.
- Pastells, Pablo, *Misión de la Compañía de Jesús de Filipinas en el Siglo XIX—Relación Histórica Deducida de los Documentos Autógrafos, Originales e Impresos Relativos a la Misma*. Barcelona: Tip. y Lib. Editorial Barcelonesa (1916-17) 3 volumes.
- Payne, Kenneth William, "The Sulphur Eaters: Illness, Its Ritual, and the Social Order among the Tagabawa Bagobos of Southcentral Mindanao, Philippines," Ph. D. Thesis, University of California, Berkeley (1985) 515 p.
- Philippines, University of the, the Library, (Consolacion B. Rebadavia, comp.; Natividad P. Verzosa & Pacifico M. Austria, eds.) *Checklist of Philippine Government Documents, 1917-1949*. Quezon City (1960) 817 p.
- Sabalvaro, Jose B. & Mashur bin-Ghalib Jundam, *Badjau*. Field Report Series No. 4, Quezon City: University of the Philippines (1978) 44 p.
- Saito, Shiro, *Philippine Ethnography: A Critically Annotated and Selected Bibliography*. University Press of Hawaii (1972) 512 p.
- Saito, Shiro, comp. & ed. *Philippine-American Relations: A Guide to Manuscript Sources in the United States*. Westport, Connecticut & London: Greenwood Press (1982) 256 p.
- Saito, Shiro & Alice Mak, comps. *Philippine Newspapers: An International Union List*. Philippine Studies Occasional Papers No. 7, University of Hawaii (1984) 273 p.
- Saleeby, Najeeb M., *Studies in Moro History, Law and Religion*. Manila: Bureau of Public Printing (1905, reprinted in 1976, Filipiniana Book Guild XXIV, pp. 1-120) 107 p.
- Saleeby, Najeeb M., *The History of Sulu*. Manila: Bureau of Printing (1908, reprinted in 1963, Filipiniana Book Guild IV, 264 p.) 283 p.
- Saleeby, Najeeb M., *The Moro Problem: An Academic Discussion of the History and Solution of the Problem of the Government of the Moros of the Philippine Islands*. Manila: Press of E. C. McCullough & Co. (1913) 31 p.
- Sawyer, Frederick H., *The Inhabitants of the Philippines*. New York: Charles Scribner's Sons (1900) 422 p.
- Schlegel, Stuart A., *Tiruray Justice: Traditional Tiruray Law and Morality*. Berkeley, Los Angeles & London: University of California Press (1970) 183 p.
- Schlegel, Stuart A., *Tiruray Subsistence: From Shifting Cultivation to Plow Agriculture*. Quezon City: Ateneo de Manila University Press (1979) 219 p.
- 柴田賢一『ダバオ戦記』大陸書房 (1979) 270 p.

- 城田吉六『ダバオ移民の栄光と挫折—在留邦人の手記より』長崎：長崎出版文化協会（1980）272 p.
- 城田吉六『ダバオ・移民史をあるく—混血二世のその後』福岡：葦書房（1985）179 p.
- Silva, Rad D., *Two Hills of the Same Land: Truth Behind the Mindanao Problem*. n.p.: Mindanao-Sulu Critical Studies & Research Group (1979) 95 p.
- Startup, Patricia & Eileen Laird, eds., *Truth Uncovered: Fact-Finding Mission Report—Cotabato—Zamboanga del Sur, May 1985*. Quezon City: Claretion Publications (1985) 162 p.
- Tadem, Eduardo C., *Mindanao Report: A Preliminary Study on the Economic Origins of Social Unrest*. Davao City: Afrim Resource Center (1980) 86 p.
- Tadem, Eduardo, Johnny Reyes & Linda Susan Magno, *Showcases of Underdevelopment in Mindanao: Fishes, Forest and Fruits...* Davao City: Alternate Resource Center (1984) 208 p.
- Tan, Samuel K., *The Filipino Muslim: Armed Struggle, 1900-1972*. Manila: Filipinas Foundation (1977) 201 p.
- Tan, Samuel K., *Selected Essays on the Filipino Muslims*. Marawi City: Mindanao State University (1982) 166 p.
- Tarling, Nicholas, *Sulu and Sabah: A Study of British Policy towards the Philippines and North Borneo from the Late Eighteenth Century*. Kuala Lumpur: Oxford University (1978) 385 p.
- Third World Studies Center, University of the Philippines, *Transnational Corporation and the Philippine Banana Export Industry*. (1981)
- Tiamson, Alfredo T., *Mindanao-Sulu Bibliography: A Preliminary Survey*. Ateneo de Davao (1970) 344 p.
- Tiamson, Alfredo T., comp. *The Muslim Filipinos: An Annotated Bibliography*. Manila: Filipinas Foundation (1979) 388 p.
- 鶴見良行『バナナと日本人—フィリピン農園と食卓のあいだ』岩波書店（1982）230 p.
- 鶴見良行『マングローブの沼地で—東南アジア島嶼文化論への誘い』朝日新聞社（1984）333 p.
- Villana-Campado, Andrea, "Cotabato to the Nineteenth Century," M.A. Thesis, University of the Philippines (1982) 212 p.
- Warren, James Francis, *The Sulu Zone 1768-1898 — The Dynamics of External Trade, Slavery, and Ethnicity in the Transformation of a Southeast Asian Maritime State*. Singapore University Press (1981) 390 p.
- Wrigglesworth, Hazel J., *An Anthology of Ilianen Manobo Folktales*. Cebu City: University of San Carlos (1981) 299 p.